

長時間透析における高齢者の安全対策

医療法人幸善会 前田病院（佐賀県）

熊川 智恵子（クマガワ チエコ、看護師） 前田篤宏、前田利朗

当院は1989年に透析室を開設、今年で35年目を迎えます。今更言うまでもなく、長時間透析は生存率が優れており、開設当初、現役で仕事をされていた方も今では後期高齢者の仲間入りです。また、近年透析導入患者さんの高齢化もすすみ、当院の現状として日中透析治療の現場では75歳以上が約半数を占めています。

高齢になるにつれ問題となるのはやはり認知機能の低下です。どの施設においても患者さんの安全を守るために様々な対策が取られていると思います。当院においてもあまり特別なことはありません。認知症が進むにつれ6時間の透析時間いかに何事も起きずに安全に透析治療を行えるか、スタッフはあの手この手で対策を講じます。認知症が疑われる場合には、MMSEを用いた認知機能評価を行い家族の協力、理解を頂き進行を遅らせるための治療を開始。透析中は抜針予防・穿刺部固定のために保護フィルムを貼り、回路触りを防止するために包帯保護や、透析中頻回の起き上がりには目が届く場所にスタッフが常に常駐する。病棟透析においては、監視カメラによる観察など、さまざまな対策は講じているものの「あっ！」という間に事故は起こり、対応したスタッフは責任の重さに打ちのめされます。また、認知症の方に限らず、年齢に関係なく様々な要因で事故は起こります。私たちスタッフにとって安心・安全な透析治療の提供は重要な課題です。

今回シンポジウムで当院の安全対策をお話しさせて頂くと共に、皆様方の施設での取り組みや対策、アイデアなど意見交換できる事を楽しみにしております。

私は「透析とは怖いもの」と先輩方から教えられました。なぜならちょっとした手技ミスや油断が患者さんの命に直結しているからです。